

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 加太・和歌の浦の活性化による移住促進プロジェクト

〔まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連〕

基本目標Ⅰ：安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅱ：住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標：転入者数 8,775人/年(H30)→ 9,300人/年(R6)

観光入込客数 669万人/年(H30)→ 715万人/年(R6)

1 事業概要

事業目的	①友ヶ島など観光客誘客に大きな成果がでている市北西部に位置する加太エリアにおいては、豊かな自然を生かした観光やスポーツによる交流人口の増加を図るとともに、東京大学の研究所等と連携し、アート等によるブランディングを行い、ターゲットを定めて訴求し、関係人口を増加させ、二地域居住を含む移住・定住地として選ばれるエリアとなることを目指す。 ②2017年に文化庁より「絶景の宝庫和歌の浦」として日本遺産の認定を受けるなど、風光明媚な景観や歴史的な祭り・芸能など文化活動が盛んである市南西部の和歌の浦エリアにおいては、芸能・歴史を生かしたまちづくりによる交流人口の増加を図るとともに、地域に根差した産業である漁業について、観光施策と融合した取組を展開し、長期滞在型の観光エリアをめざすことで、域内消費の拡大や域内の良好な経済循環を図る。		
実施年度	R5-R6	事業費(円)	348,922,200円 (うち交付金充当111,091,000円)
実施内容	加太観光協会や漁協、自治会など地域の主要なメンバーで構成された加太まちづくり会社や和歌の浦における歴史的風致維持向上支援法人など地域団体が主体となり、民間事業者や地域住民との合意形成を図りながら、環境・アート・歴史を軸に地域資源のブランディング強化と、効果的なプロモーションを行い、加太・和歌の浦エリアの活性化や移住定住の促進を図る。 (R6主な事業) ・友ヶ島野奈浦栈橋架替工事		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (H29)	目標値(上段) 実績値(下段)							KPIの達成状況及び 達成できた理由・ できなかった理由	
		H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6		
加太・和歌の浦エリアへの転 入者数(単位:人)	214	219	231	251	274	299	303	-		
		194	199	194	172	212	245	185		
加太・和歌の浦エリアに おける空き家・空き店舗の 活用件数(単位:件)	0	0	2	6	14	18	24	-		
		2	2	7	12	22	29	33		
加太・和歌の浦エリアへの観 光客数 (単位:千人)	3,962	4,012	4,062	4,152	4,242	4,262	4,292	-	KPIの達成状況	未達成
		4,170	4,327	2,934	2,996	3,580	3,860	3,646	令和5年度にあった旅行支援がなくなったことや8月の日向灘地震に伴う南海トラフ地震臨時情報の発令、台風の接近により旅行キャンセルが相次いだことにより加太・和歌の浦エリアへの観光客数が大幅に減少したため。	
和歌の浦エリア漁業従事者 数(単位:人)	151	156	161	171	186	196	206	-		
		137	134	136	134	136	138	140		

※計画期間がH30-R5のため、R6の目標値については設定されていません。

3 事業効果		本事業終了後における事業効果
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	栈橋の耐久性向上と安全対策の強化により、来訪者が安心して利用できる環境が整備され、来訪者の心理的な安心感が高まり、観光誘客の基盤構築が進んだため本事業は地方創生に効果があったと考える。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があつた (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があつた (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとはいえないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

4 行政評価委員会による評価

評価	意見(今後の方向性や改善策等)	
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	【評価できる点】 ・各種施策を丁寧に実施している。 ・地域のあり方について様々な意見がある中で事業を進めた点は評価ができる。 ・制度を利用した空き店舗の活用が2件あったということ。 ・栈橋の更新により天候による影響が軽減されたこと。 【改善が必要と考えられる点】 ・外部からの観光客目線も大事である。 ・外部の力を使うのは良いように思うが、住民の本音には遠いのではないか。住民の思いを取り上げる方法について再検討していただきたい。 ・更なる栈橋の安全対策が必要と考える。来訪者が安心して利用できる環境整備の面では不十分である。 ・栈橋の更新により天候による影響が軽減されたものの、依然として天候による影響が大きい。 【その他意見】 ・漁業従事者数の拡大は難しい課題であると思う。若者にとって魅力を感じてもらえる政策を深掘りして検討していただきたい。 ・空き家バンクの活用等、空き家の流通を促進する仕組みがあるとよい。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があつた (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があつた (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとはいえないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 和歌山の魅力資源を活用したインバウンド推進事業

[和歌山市デジタル田園都市構想総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ: 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅱ: 住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標: 年間宿泊者数 993,429人泊(R5)→ 1,124,000人泊(R9)
観光消費額 46,606,398千円(R5)→ 53,294,000千円(R9)

1 事業概要

事業目的	地域特有の資源を活用したコンテンツの創出・誘客の促進により、市内全体の周遊につなげ国内外からの誘客を図るとともに、県内の中でも「観光地として選ばれるまち」を目指し、多世代交流、滞在時間延長と消費を促す仕組みを構築し、交流人口と市内消費の増加を目指す。		
実施年度	R6	事業費(円)	75,163,473円 (うち交付金充当36,272,062円)
実施内容	①自然・歴史・文化等の磨き上げによる集客の促進 Webページの整備や市外に向けた広告発信によりプロモーションを強化するとともに、和歌の浦誕生千三百年に合わせたイベントの実施や茶室紅松庵50周年イベント等の地域資源を活用した事業の実施により誘客の促進を図った。 ②大阪・関西万博を契機としたインバウンド等の回復 クルーズ船の入港に合わせたおもてなしイベント実施や台湾等の諸外国との交流促進により外国人の和歌山市に対する認知度の向上を図った。 (R6主な実施事業) ①自然・歴史・文化等の磨き上げによる集客の促進 ・日本遺産「和歌の浦」発信事業 ・シティプロモーション事業 ②大阪・関西万博を契機としたインバウンド等の回復 ・観光客おもてなし事業 ・諸外国への観光・物産PR		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	増加分(目標)			KPIの達成状況及び 達成できた理由・できなかった理由	
	増加分(実績)				
	実績値				
	R5	R6	R7		
観光入込客数 (単位:人) 基準値: 4,652,524	30,000	30,000	30,000	KPIの達成状況	未達成
	649,605	-127,555		市外に向けたプロモーションや地域資源を活用した事業の実施により観光誘客に一定の効果があったものの、令和5年度にあった旅行支援がなくなったことや8月の日向灘地震に伴う南海トラフ地震臨時情報の発令、台風の接近により旅行キャンセルが相次いだため。	
	5,302,129	5,174,574			
外国人宿泊客数 (単位:人) 基準値: 2,292	1,743	1,743	1,743	KPIの達成状況	達成
	64,118	21,048		国外に向けたPRの実施等により外国人に対する和歌山市の認知度が向上し、旅行先として選んでいただくことができたため。	
	66,410	87,458			
友ヶ島入島者数 (単位:人) 基準値: 43,488	3,680	3,680	3,000	KPIの達成状況	未達成
	1,039	-570		受入体制の整備や友ヶ島を舞台としたアニメ「サマータイムレンダ」を活用したマップの作成によるPRを行ったが、繁忙期に台風等の自然災害が重なったため。	
	44,527	43,957			

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合) E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	C 国外に向けたPRの実施等により「外国人宿泊客数」については目標値を大幅に超えて達成することができた。 「観光入込客数」、「友ヶ島入島者数」については自然災害等により昨年度から減少し目標値を下回ったものの、本事業の実施により減少数を縮小することができたと見込まれるため、本事業は地方創生に効果があったと考える。

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合) E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	B	【評価できる点】 ・HPなどを通してPR、プロモーションに取り組んでいる。 ・外国人宿泊が大幅に増加している。 【改善が必要と考えられる点】 ・海外のインバウンドにより多く来訪していただくための施策をより一層充実させてほしい。 ・返礼品として宿泊券を配り和歌山市に招待するなど、「ふるさと納税」の活用を検討していただきたい。 ・大阪・関西万博終了後も和歌山市に魅力を感じていただける誘客政策を検討していただきたい。 ・台風等の自然災害は仕方ないが、安定した季節にキャンペーン企画等の工夫が必要である。 ・記念品等の土産物の開発や体験型観光のパッケージ化を促進してほしい。 【その他意見】 ・友ヶ島入島者数について、繁忙期には毎年台風が来るため、引き続き、受入体制の整備、魅力を感じていただける施策をSNSを活用しながら検討していただきたい。

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 地域の魅力を活かしたサステナブルな移住定住促進プロジェクト

[和歌山市デジタル田園都市国家構想総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ: 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅱ: 住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標: まちなか居住人口の比率 9.1%(R5)→ 9.3%(R9)

地域住民によるまちづくり活動やふれあい活動に対する市民満足度 9.2%(R5)→ 14.2%(R9)

1 事業概要

事業目的	市内の人口減少に歯止めをかけるため、移住支援体制の強化や、安心して就労でき、暮らすことのできる環境の整備、また、本市の「海」や「和歌山城」といった重要な地域資源を今後も活かしていくことで、人の流れを生み出し、誰もが住みやすく、住み続けたい、働きたいと思える持続可能な地域づくりの実現を目指す。		
実施年度	R6	事業費(円)	37,409,797円 (うち交付金充当18,704,898円)
実施内容	①移住希望者とのマッチング強化 移住相談会・移住フェアへの出展や情報発信、交流イベントの開催により本市への移住に対するイメージや認知度の向上を図り、本市への移住定住を促進した。 ②将来的な移住定住を見据えた働き手・担い手の確保と育成 企業説明会の開催や海環境に関するイベントの実施により本市への就職や地域への愛着づくりを図り、定住につなげた。 (R6主な実施事業) ①移住希望者とのマッチング強化 ・移住フェア等への出展 ・関係人口創出事業 ②将来的な移住定住を見据えた働き手・担い手の確保と育成 ・わかやま就職応援プロジェクト事業 ・子ども海かいぎ事業		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	増加分(目標)			KPIの達成状況及び 達成できた理由・できなかった理由	
	増加分(実績)				
	実績値				
	R5	R6	R7		
移住者数 (単位:人) 基準値: 140	10	10	10	KPIの達成状況	未達成
	30	-36		シティプロモーションの実施や本市の魅力の磨き上げにより認知度向上や移住促進を図ったが、移住需要の変動等により減少したため。	
	170	134			
移住関連事業 活用者数 (単位:人) 基準値: 66	5	5	5	KPIの達成状況	未達成
	82	-36		移住フェア等において本市で実施している移住関連事業を周知したが、移住需要の変動等により減少したため。	
	148	112			
就職イベントの市外(県外)からの参加者数 (単位:件) 基準値: 0	150	30	20	KPIの達成状況	達成
	45	61		大阪市やオンラインで就職イベントを開催し市外の方が参加しやすい環境を整えるとともに、インスタグラムの広告を活用し市外の方に向けて周知を行うことができたため。	
	45	106			

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B:本事業は地方創生に相当程度効果があつた (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C:本事業は地方創生に効果があつた (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合) E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	C 「就職イベントの市外(県外)からの参加者数」についてはオンラインでの開催やSNSを活用した広告等により、昨年度より増加し目標値も達成することができた。 「移住者数」「移住関連事業活用者数」については移住需要の変動等により昨年と比べて減少し、目標値を達成することができなかったものの、「移住関連事業活用者数」は累計の目標値を達成できているため、本事業は地方創生に効果があつたと考える。

4 行政評価委員会による評価

評価	意見(今後の方向性や改善策等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B:本事業は地方創生に相当程度効果があつた (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C:本事業は地方創生に効果があつた (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合) E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	C 【評価できる点】 - それぞれの施策を着実に実施している。 - 事業を積極的に実施している。 【改善が必要と考えられる点】 - 移住フェアについて近隣の各機関とより一層連携していただきたい。 - 移住にとらわれず、市内の「就業者数の増加」を基準に活動されたいののではないかな。 - 外からの移住だけでなく、転出防止(企業も含めて)対策の検討も今後必要だと思う。 - 生活環境(交通)の整備や企業の誘致が必要である。 【その他意見】 - 移住者の住環境として空き家等の有効活用を検討していただきたい。

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(地方創生推進タイプ) 検証シート

プロジェクトの名称 スマートシティの推進による持続的な産業まちづくり

[和歌山市デジタル田園都市構想総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ: 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

関連のある数値目標: 粗付加価値額 6,721億円(R4) → 7,064億円(R9)

1 事業概要

事業目的	- 本市におけるスマートシティ実現に向けた取組を推進し、本市が住みたい・働きたいまちとして選ばれ、持続的に成長できるまちを目指す。 - 地域課題や行政課題の解決に繋がる市内DX等を推進するとともに、第一段階としてまずは稼げるまちづくりを形成する。		
実施年度	R6	事業費(円)	34,066,524円 (うち交付金充当16,911,149円)
実施内容	①スマートシティの推進 スマートシティ推進のための実証実験を実施した事業者やデジタルツールを導入する中小企業者に対し補助を行いスマートシティの実現に向けた市内のDXを推進した。 ②大阪・関西万博を見据えた新たな地場製品のセールス 展示会を実施する事業者への補助や市内事業者の海外展開を支援することにより販路開拓を推進し、安定して稼げる仕組みの実現を図った。 (R6主な実施事業) ①スマートシティの推進 - スマートシティ推進事業 - 市内事業者デジタル化推進事業 ②大阪・関西万博を見据えた新たな地場製品のセールス - 販路開拓支援事業 - 姉妹都市等へ向けた販路拡大支援事業		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	増加分(目標)			KPIの達成状況及び 達成できた理由・できなかった理由	
	増加分(実績)				
	実績値				
	R5	R6	R7		
製造品出荷額 (単位:百万円) 基準値: 1,357,133	100	150	200	KPIの達成状況	-
				令和6年度実績値については令和9年1月ごろに国より公表予定 (令和5年度実績値については令和8年1月ごろに国より公表予定)	
設備投資等に取り組んだ結果、売上が向上した企業数 (単位:件) 基準値: 0	10	10	10	KPIの達成状況	未達成
	2	7		設備投資への補助に係る要件を緩和したことにより制度を活用する企業数はR5年度と比べ増加したが、制度の活用を検討する企業にとっては要件が依然として厳しいものであったため。	
	2	9			
本事業を通じデジタル化に取り組んだ企業数 (単位:件) 基準値: 0	6	9	9	KPIの達成状況	未達成
	6	7		企業のデジタル化推進のため様々な補助を行ったが、補助の上限額が低いことにより応募に至らないケースがあったことや、事業費の範囲内で補助金を交付できる企業数に限りがあったため。	
	6	13			
新たに商談成立した企業数 (単位:件) 基準値: 0	2	2	2	KPIの達成状況	達成
	4	7		展示会への来場者数が増加により、商談の機会が拡大し商談成立数の増加につながったため。	
	4	11			

※基準値は計画提出時最新の数値

3 事業効果

本事業終了後における事業効果

A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	展示会への来場者数の増加等に伴う商談機会の増加により「新たに商談成立した企業数」については目標値を達成することができた。 「設備投資等に取り組んだ結果、売上が向上した企業数」、「本事業を通じデジタル化に取り組んだ企業数」については補助上限額の低さから応募に至らないケースがあったこと等により目標値を達成することはできなかったものの、R5年度と比較して順調に増加しているため本事業は地方創生に効果があったと考える。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	【評価できる点】 ・各種事業を着実に実施している。 ・デジタル化、DX化という先端のイメージを踏まえ、高い理想に向かって事業を推進されているように思う。 ・補助金が企業の後押しになった。 【改善が必要と考えられる点】 ・スマート化の目標(効率性、売上)がやや不明瞭であった。 ・事務処理の効率化、会計・人事・営業のシステムの連動化の推進など、身になる事業に目を向けていただきたい。 ・DXの基準を整備、明確にし、中小企業者に対して広く補助できる仕組みを検討していただきたい。 ・中小企業のデジタル化の促進が必要である。 ・スマートシティの推進が必要である。 【その他意見】 ・販路開拓支援の具体策を提示いただけたらと思う。地場産品のセールス内容が不明確であった。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(デジタル実装タイプ) 検証シート

事業名 防災学習センターデジタル化整備事業

1 事業概要

事業目的	東日本大震災をはじめ全国で発生した甚大な災害の記憶が風化する中、南海トラフ巨大地震等今後発生が懸念される大規模災害に対し、自ら適切に判断し主体的に行動できるよう実践的な災害対応能力を身につけ、和歌山県防災・減災基本方針「災害による犠牲者ゼロ」を目指すデジタル技術を活用したコーナーを和歌山市消防局防災学習センターに導入するもの		
実施年度	R6	事業費(円)	49,482,400円 (うち交付金充当24,741,200円)
実施内容	平成17年に開館した消防局防災学習センターのメインコーナーをリニューアルし、次の5つの新たな体験を整備する。 ①デジタル防災クイズ: WEB形式のデジタル防災学習コンテンツ。事前学習とリンクする各コーナーの体験を通じて災害対応能力を高める。年齢に応じ3コースを作成 ②リアル・ザ・ムービー(シアター体験): 津波避難三原則を守れるかをテーマとした映像で率先避難者を養成、津波災害犠牲者ゼロを目指す。大人向け、子供向けの2映像を作成 ③消火・ザ・トライ(初期消火体験): プロジェクションマッピングにより壁面全体を火災現場と見立てた169インチの迫力映像に向け、模擬消火器を使用し消火にチャレンジ。確実な行動を習得する。 ④レスキュー・オブ・ザ・ハート(救命処置体験): 各種センサーを内蔵したシミュレーションマネキンで体験者自身が手技の効果をリアルタイムに確認。AEDの体験も可能とする。 ⑤レッツ・コール119(119番通報体験): 指令通信員と会話形式の通報シミュレータ。火災、救急の場面に応じた通報トレーニングを行う。		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	目標値(上段)			達成状況
	実績値(下段)			
	R6	R7	R8	
シアター体験者数(人)	260	13,000	14,000	達成
	1,468			
初期消火・救命処置・119番通報体験者数(人)	600	30,000	33,000	達成
	3,520			
WEBコンテンツ利用数(人)	100	2,000	2,200	達成
	434			
防災学習センター来館者数(人)	7,000	13,000	14,000	達成
	11,184			
整備サービス利用者の満足度(%)	62.0	72.0	77.0	達成
	82.0			
初期消火実施率(%)	66.0	67.0	68.0	未達成
	64.0			

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B 令和6年度末頃まで整備がかかる予定であったが、予定より早く令和7年3月16日にオープンすることができた。事業のお披露目としてのオープン式典を開催することとして、市長の記者会見での告知をはじめ積極的に周知に取り組んだところ、朝日放送テレビ、テレビ和歌山、NHK、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞に取り上げられた。これが功を奏し、市内のみならず市外の多くの方々に周知されることにつながり、令和6年度は半月の期間であったが、KPI目標値を大幅に上回ることができた。 救命処置体験のコーナーの新設など利用者の意見を事業に盛り込めたことは、利用者の高い満足度につながった。 初期消火実施率についてはKPI未達成ではあるが、防災学習センターでの防災体験がすぐに効果として現れにくいためであり、引き続き消火器の使い方を多くの方に体験していただき、初期消火実施率向上に努めていく。
B:本事業は事業目的達成に相当程度効果があつた (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は事業目的達成に効果があつた (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は事業目的達成に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	A	【評価できる点】 ・南海トラフ巨大地震の危険率が高い和歌山において、防災減災についての学習活動が強化されている。 ・メディア発信も行っており、満足度も極めて高い。 【改善が必要と考えられる点】 ・初期消火実施率を向上するために、20歳～60歳の方に来館いただく方策が必要である。 【その他意見】 ・KPIの達成に向けた広報等が必要である。
B:事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:事業目的達成に効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとはいえないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

デジタル田園都市国家構想交付金プロジェクト(デジタル実装タイプ) 検証シート

事業名 高齢者・重度身体障害者見守りサービス事業

1 事業概要

事業目的	高齢化、核家族化によるひとり暮らしの高齢者及び重度の身体障害者が自宅内での事故や急病、火災などの緊急時に対応するため、自ら緊急通報することが可能なシステムを導入するとともに、一定時間動きが無い場合異常感知し、通報する緊急通報サービスを提供し、ひとり暮らし高齢者や重度の身体障害者が住み慣れた地域で安心して生活が送れる体制を構築することを目的とする。		
実施年度	R6	事業費(円)	20,763,242円 (うち交付金充当10,381,621円)
実施内容	・ひとり暮らしの高齢者及び重度身体障害者が自宅内での事故や急病、火災などの緊急時に対応するため、身に付けたペンダント型送信機を押し、警備会社の職員が駆けつけ必要な措置を行うサービスを提供する。 ・廊下やトイレ扉など生活導線にセンサーを設置し、一定時間動きが無い場合に異常を検知し、警備会社の職員が駆け付け必要な措置を行う緊急通報装置を貸し出す。 ・看護師等による電話での健康相談を24時間365日受付		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	目標値(上段)			達成状況
	実績値(下段)			
	R6	R7	R8	
緊急通報システム設置件数(件)	653	670	700	
	713			達成
人感センサー設置件数(件)	230	250	280	
	261			達成
緊急通報システム通報件数(件)	290	300	315	
	386			達成
利用者の満足度(%)	60.0	65.0	70.0	
	60.0			達成
高齢者が住み慣れた地域で充実した生活を送れていると感じている市民の割合(%)	57.5	58.0	58.5	
	57.5			達成
緊急通報による利用者の早期発見数(件)	110	120	130	
	135			達成

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
A:本事業は事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合) B:本事業は事業目的達成に相当程度効果があつた (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C:本事業は事業目的達成に効果があつた (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D:本事業は事業目的達成に対して効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとはいえないような場合) E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	A いずれのKPI目標値も達成することができ、本事業はひとり暮らしの高齢者及び重度の身体障害者が住み慣れた地域で安心して生活を送るための事業目的を達成するために非常に効果的であった。

4 行政評価委員会による評価

評価		意見(今後の方向性や改善策等)
A:事業目的達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	A	【評価できる点】 ・一人暮らしの高齢者等が安心して生活を送れる体制が整備されている点が評価できる。実際に救急搬送により命が助かっている。 ・KPIが全て達成されている。 ・これからますます必要な事業であるので、今後も事業として継続が望まれる。 【改善が必要と考えられる点】 ・地域のケアマネージャーや自治会等との情報共有も重要である。 ・高齢者も世代交代により、「苦手」の中身も変わってくる。今はスマートフォンを使うのが苦手な方が多いかもしれないが、今後はスマートフォンを使える高齢者が増えてくる中で、予算は増やさずに効果を上げることを常に考え取り組んで欲しい。 ・高齢者が使いやすいように改善が必要である。 ・目標設定数値がやや低い。
B:事業目的達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:事業目的達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:事業目的達成に効果がなかった (KPI 実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		